

【1月の活動予定】

1月8日(火)に中間報告会を開催します。

このたび、平成20年1月8日(火)18:00~19:30の予定で、六甲道勤労市民センター5階E会議室にて平成19年度中間報告会を開催いたします。

さる6月12日(火)には六甲山環境整備協議会の第2回総会を開催しました。その際に承認された事業計画に基づいて、6月~12月の活動報告と1~3月の活動計画を中心テーマにして意見交換を図ります。

会合の終了後には会費制の交流会も用意しています。参加ご希望の方は事務局にご連絡ください。

1月19日(土)の午前中は環境整備活動です。

1月19日は六甲山YMCAで第58回市民セミナー「絵葉書で見る六甲山」(石戸信也講師)が開催されます。当日の午前中に環境整備活動を実施します。二つ池周辺の環境調査などを予定しています。

参加ご希望の方は六甲山YMCAに10時にご集合ください。

1月20日は「六甲山の冬をあそぼう4」を開催

子ども・家族を対象にした環境学習プログラムとして、恒例の「六甲山の冬をあそぼう」の第4回目を1月20日(火)に開催します。大変好評で、すでに募集人数の50名に達しています。

今回は六甲山の最高峰に登ってみようという試みを入れました。運営スタッフとして協力していただける方は「六甲山自然保護センターを活用する会」事務局までご連絡ください。

【6~12月の活動の概略】

「六環協ニュース」の第6号を発行して以来、約半年間休刊してましたので、改めて6ヶ月間の活動の概要をご報告します。

①月例で近畿自然歩道の景観整備を実施

原則として「市民セミナー」の開催日の午前中には、近畿自然歩道の散策路沿いのササ刈りなどを継続しています。6回実施し延べ80名が参加しています。自然歩道の東端はツル植物を手入れたので、明るい景観になりました。散策路のササを刈った所で、植生の再生が進んでいます。



散策路のササ刈り

②植生の変化を継続して観察

ササ刈りの後の植生の再生や変化について観察を続けています。10mの区画に分けてササの密度や植生の状況を観察しています。

11月には二つ池の周辺の樹木などを含めて植生調査を実施しました。7回実施し延べ32名が参加しています。



散策路脇のアキノタムラソウ

③水生生物の生態調査を本格的に実施

今期の景観整備活動で特筆できるのは一連の「水生生物の生態調査」です。「市民セミナー」開催日の景観整備活動と連動する場合や調査チームが単独に調査するなど、10回実施し延べ45

名が参加しました。11月には「しみん基金・こうべ」から助成を受けることができたので、二つ池の水生生物の生態調査を本格的に実施することになりました。総合的な環境調査に発展することを目指しています。



水生生物の生態調査



二つ池の実地測量

④環境学習のフィールドづくりを進める

二つ池と周辺の雑木林一帯を対象にして、総合的な環境調査を行うとともに、学習のフィールドとして自然環境の保全と整備を図ろうとしています。

10月から二つ池の実地測量を行い、基本となるデータを整理しました。12月には、東側の雑木林の中に10m×30mの調査区域を設定しました。これらの調査を3回実施し延べ21名が参加しました。

⑤環境整備活動への市民参加の促進

二つ池と周辺の雑木林一帯を対象に、市民のボランティア活動を促進して環境調査や環境整備を行うことを目指しています。その底辺づくりになると考えて、子どもを対象にした環境学習プログラムとして、「夏の子どもパークレンジャー」と「六甲山の夏をあそぼう2」を環境整備活動の対象地域で開催しました。総勢117名が参加しました。

また、神戸県民局の委託を受けて、7月~11月の5回の「市民セミナー」を「環境整備型の市民セミナーシリーズ」に改訂しました。延べ46名がボランティア活動に参加しました。

【これからの活動計画】

平成19年度の終盤になる1~3月の環境整備活動については、来年度の活動を支えるための基盤づくりや予備調査を行うことを重点にします。その要点として次の3つを考えています。

①近畿自然歩道の景観整備活動

近畿自然歩道沿いの区画区分を延長して、ササ刈りを行い、植生変化を継続観察する態勢を整えます。また、二つ池東側の雑木林の調査区画の設定を充実しつつ、植生調査の計画を練ります。

②二つ池と周辺地域の環境調査

二つ池と周辺を自然環境の保全と自然再生を考えるモデル地域とみなして、総合的な環境調査を進めます。水生生物の生態調査、周辺の植生調査を進めます。

③環境学習プログラムの推進

2月3日(日)に開催する4~6年生対象の「冬の子どもパークレンジャー2」では、二つ池の環境調査の実習活動を組み込んでいます。初年度は「自然観察に親しむ」、2年目は「環境調査に取り組む」、3年目は「季節の環境変化や地域の生態系を把握する」という、3段階のステップ学習に整備しながら推進する予定です。

(文責:堂馬英二)